神は純粋な心を愛する

グルマーイ・チッドヴィラーサーナンダ

抜粋 24

存在の純粋さ、「サットワ・サムシュッディ」は純粋な行為から生まれます。いかなる映画も「無害」ではありません。「ちょっとした」食べ物というものも存在しません。すべては、ニュースでさえ深いレベルで人に影響を与えます。しばしば、あるニュースを聞いてから数時間たった後でも、まだそれを悲しんでいる、あるいは、高揚させられていることに気づいたことがあるでしょう。ニュースはニュースです。良くも悪くも人に影響を及ぼします。耳に入るものは何であれ、自分の中に残るのです。

こうしたことを直ちに処理できる人はほとんどいません。自分の中に何も残らないように外側からの印象を吸収、消化して、即座に処理するには、この上ない規律正しさが必要です。泥の池の中で沐浴（もくよく）しようとすれば、清潔になるどころか、もっと汚れてしまうでしょう。泥の中で溺れてしまうかもしれません。同様に、無謀で不純な行為を行うのなら、その結果は、遅かれ早かれあなたの手に負えなくなるでしょう。

カシミール・シャイヴィズムの基本的な教典の一つである『スパンダ・カーリカー』は、次のように言っています。

> *nijāśhuddhyāsamarthasya kartavyeṣhvabhilāṣhiṇaḥ /*
> *yadā kṣhobhaḥ pralīyeta tadā syāt paramaṁ padam //*
>
> 人は自らの不純さによって無能になり、行為に執着する。[1:9]

© 2022 SYDA Foundation®. 著作権所有。

グルマーイ・チッドヴィラーサーナンダ著『神は純粋な心を愛する』第2章「存在の純粋さ」（SYDA Foundation 2005）
19〜20 ページ